

教授
梶原 江美

■ 学歴

1. 2003 年 佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了

■ 学位

1. 2003 年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学
2. 看護教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. ラテックスアレルギー
2. 看護基礎教育
3. ケアリング

■ 研究課題

1. ラテックスアレルギーの予防に関する研究
2. 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究
3. ケアリングに関する研究

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期）（看護学科）必修
2. 生活援助技術論演習（後期）（看護学科）必修
3. ヘルスアセスメント演習（後期）（看護学科）必修
4. 診療関連技術論演習（前期）（看護学科）必修
5. 看護過程論（前期）（看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期）（看護学科）必修
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科）必修
8. 看護総合演習（前期・後期）（看護学科）必修
9. 看護総合実習（前期・後期）（看護学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|----------------|
| 1. | 授業科目名【看護技術論演習】 |
|----|----------------|

	おもに演習での実技指導を担当した。事前の動画視聴や教員のデモンストレーションを基に根拠や身体の使い方、ボディメカニクス的重要性などを学生の実施の状況を見ながら助言した。看護技術の原則の他、看護技術のコツについても実際に教員がやって見せながら指導することを心がけた。
2.	授業科目名【生活援助技術論演習】 前期で学修した内容を相互演習での声かけやボディメカニクスでの活用、動画教材を予習として取り入れ、自分の日常生活行動の振り返りをして演習に臨む、演習開始時に要点を押さえて、実際に教員がやって見せながら助言を行い指導に活かした。Google フォームを活用し、学生から質問や意見を求めて必要時解説した。
3.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 おもに演習での実技指導を担当した。演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていけるよう努めた。また、実技試験項目であるバイタルサインは、技術面として①コロトコフ音の聴取、②減圧時の指の巧緻性、③値の読み取りが学生の苦手部分となるため、重点的に助言をするよう心がけた。
4.	授業科目名【診療関連技術論演習】 おもに演習での実技指導を担当した。注射や採血、導尿といった患者に侵襲を及ぼす診療関連の特徴を踏まえて、手技だけでなく声掛けの重要性なども併せて助言するよう心掛けた。
5.	授業科目名【看護過程論】 基礎看護学実習Ⅱと連動し、看護過程の基本的な考え方の他、地域包括ケアシステムの中に存在する患者として退院後の患者の生活を意識するように授業やワークを行う記録用紙に反映した。記録については記録要領を作成し理解を促した。また、授業での学習の理解度や進度に合わせて、授業の時間に教員のフィードバックを新たに設けるほか、学生の質問には個別に対応して理解を促した。 また、個別に看護過程の考え方や記録の書き方について解説する時間を設けて、学生の理解を促した。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 基礎看護学実習Ⅰは、1年次後期必修科目1単位の実習形式で行う。 1週間ずつ2施設での実習施設との調整を経て、実習指導を行った。初めて担当患者をもって患者と接する実習であるため、学生の不安をやわらげながらも適度の緊張を持ちつつ、実習が円滑に進むよう実習指導者との調整を行った。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎看護学実習Ⅱは、2年次前期必修科目2単位の実習形式で行う。 他領域の助教助手の支援も仰ぎ、2週間にわたって担当患者（学生2名に対して1名の患者）の看護過程の展開の指導を行った。看護過程論での学びを活かし、日々変化する患者の状態についての解説を行うなど実習指導者と調整しながら実習を進めた。
8.	授業科目名【看護総合演習】 ゼミ生5名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、実習目的を達成するための学習力や発信力（プレゼンおよび討議）を意図した関わりを行った。ラベルワークを行い、実習に向けた準備を前半に行い、後半は実習の経験から自分の関心のあるテーマを見つけてレポートを作成し、発表会を実施した。
9.	授業科目名【看護総合実習】

	学生が複数の患者を受け持つ、実習の中で自ら看護師と調整をする、チーム医療を考える機会とするなど目的意識を持って自ら学ぶ実習にすることを目指して支援した。実習指導では、学生の自立性を意識した関わりに努め、複数受け持ちによる多重課題への対応やチーム医療を意識したカンファレンスなどへの参加を事前に病棟と調整した。
--	--

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996 年 4 月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2000 年 9 月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
3.	2003 年 3 月～現在に至る	日本看護科学学会会員	
4.	2003 年 5 月～現在に至る	日本看護診断学会会員	2003 年 5 月～現在に至る
5.	2005 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会会員	2005 年 4 月～現在に至る
6.	2010 年 4 月～現在に至る	日本看護技術学会会員	2010 年 4 月～現在に至る
7.	2011 年 2 月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	2011 年 2 月～現在に至る
8.	2011 年 12 月～現在に至る	STTI 会員	2011 年 12 月～現在に至る
9.	2012 年 7 月～現在に至る	日本看護管理学会会員	2012 年 7 月～現在に至る
10.	2015 年 4 月～現在に至る	日本ラテックスアレルギー研究会会員	2015 年 4 月～現在に至る
11.	2019 年～現在に至る	特定非営利活動法人日本コ克蘭センター	2019 年～現在に至る
12.	2018 年 5 月～現在に至る	日本看護福祉学会	2018 年 5 月～現在に至る
13.	2020 年 2 月～現在に至る	日本医療・病院管理学会	2020 年 2 月～現在に至る

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文 等の名称	単著・ 共 著 の別	発行所、発表雑誌 等又は発表学会 等の名称	概 要
（著書）					
（学術論文）					
（翻訳）					
（学会発表）					
1.	2024 年 10 月	ジグソー法学習法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果－演習リーダーを経験して得た学びと気づきから	共同	日本看護技術学会第 22 回学術集会	ジグソー法を導入した診療関連技術の授業で、演習リーダーの役割を経験した学生の学びと気づきを質的に整理し、学生の学修活動効果について考察した。

		の一考察			
2.	2024年12月	ジグソー法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果－学習活動自己評価尺度からの一考察－	共同	第44回日本看護科学学会学術集会 (2024.12.7. 於：熊本)	アクティブラーニングの有効性が示唆されている現在、診療に関連する看護技術教育にジグソー法を教育手法として取り入れた。学習活動効果を舟島らの尺度を用いて、演習前後での比較を行い、その有効性と課題について考察した。
(その他)					
1.	2024年6月	ラテックスアレルギーと医療用手袋に含まれるタンパク質の特徴	共著	北隆館、月刊 アグリバイオ vol.8(6)p60(522)-63(525)	ラテックスアレルギーの予防に向けて行っている現在の研究テーマについて、最近の動向と医療用手袋に含まれるタンパク質の測定について出版社の依頼を受けて紹介した。

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究					
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
1.	ラテックスアレルギー予防に向けたタンパク質フリー天然ゴム素材の開発	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	○梶原江美 (山本祥正、飯野英親)	4,290,000 円	

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2022年4月～現在に至る	入学試験会議	
2.	2024年4月～2025年3月	人事委員会	

3.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	内部監査委員会	責任者
4.	2024 年 4 月～2025 年 3 月	2 年生アドバイザー	リーダー
5.	2022 年 4 月～現在に至る	4 年生アドバイザー	